

子育てとワングル

No 636 木村 貴美子

最近の子供たちの遊び場所というのは、私たちの頃と違って、とても限られてきています。街中だと特に単純にスペースがなかったり、公園があってもボールは使ってはいけない、公園に行くにも不審者に気をつけなければいけない、そのために就学前の子供には親がついていけないと不安・・・習い事がたくさんあって、友達とは遊べない・・・、まず友達と遊ぶには約束をしておかないとスケジュールが合わない、等々、子供たちだけでできる冒険が減ってきているように感じます。

広いところで遊ぶにはそれなりの思い切りが親にも必要なのが「今」なのかな、と思います。子供が通った幼稚園でできた仲良し家族（4～5家族）で、普段は大人の飲み会中心のホームパーティーが多いですが、外で遊べるシーズンになると出かける計画を立てたりしています。その中で、愛宕山にみんなで登ったことがありました。子供はほとんど幼稚園年中以下。ちゃんと登れるのだろうか？と思っていたら、親の心配をよそに同い年の友達もいるせいか、文句なしに自分の足で最後まで下山してくれました。きっと家族だけだったら、甘えて「抱っこ」「おんぶ」と言われて、こちらも「はぁ～～」と楽しいはずの山が修行になっていたでしょう。

行くまでに計画を立てるのに、連絡を取り合ったりスケジュールを合わせたり、面倒くさい部分があるのも事実です。そこはワングルと同じです。バックグラウンドが違う人たちでワイワイ、自分が持っているアイテムや特技を披露しつつ、いつも出発直前まで決まらないこともしばしば。でも、当日大人も子供も自然の中に解き放たれるとやっぱりなんだか嬉しい、楽しい気分になれる。

こどもたちの目が生き生きしているのがよくわかります。

ワングルという、多岐にわたる活動をしているクラブに入ってしてきたことを、子供たちに教えられて楽しめるのは、ワングル部員の強みかな、とおもいます。現役時代に大変だな、と思って乗り越えた部分が、今では大変と思わなくなったり。行った先での必要なことがわかっていたり。導入部分で足踏みしなくて良かったり。go サインが出しやすいですネ。

子供たちが自然の中で思い切り身体を動かす楽しさを味わってくれることが、健やかに育っている証拠になっていると信じています。

写真集



1965年 夏合宿（安達太良山）



1965年 新人錬成 大鍋担いで



新錬 川で食当（北山）
3m流れたら水はきれいになる



1968年 秋合宿解散式（大山杣水が原）



新錬 テント張り講習



1967年 夏合宿（トムラウシひさご沼）
この30分後に乗っていた雪溪が大崩落



1968年 3年生



1969年 新錬 北山



1968年 春合宿 (奥日光)



1969年 地図読みPW (北山)



1973年 夏合宿 北アルプス



1973年 夏合宿 (南アルプス。吊り橋)
笑っているが初日からバテバテ



1973年 春合宿 高峰高原 湯の丸温泉



1973年 夏合宿



1973年 ワンゲルソフトボール大会



1973年 夏 猿倉山荘で



1974年 夏 針の木雪渓



一澤のテント 1974年 秋合宿 桐海新道



1974年 夏合宿（鷲羽岳）



1974年 山岳同好会の人たちと



1974年 秋（雨具に注目）

女性が着ると100年の恋も冷めると言われた雨具
この中に女性がいます。さて…。



1974年 秋合宿 梅海山荘（-1℃）



1977年 第1次新錬



1975年 春合宿



1977年 卒業旅行で
手袋（冬山用）に注目



1975年 第1次新録



第1次新録 北山



1977年 第2次新録 比良



1977年 第2次新録 金糞峠



1978年 第2次スキー合宿



1978年 春合宿 沖縄 里ワン



1980年 夏合宿 南アルプス



1980年 春合宿 屋久島



1983年 第2次新錬 尾瀬 DWV 人文字



1983年 第2次新錬 尾瀬



1983年 夏合宿 大雪知床



1983年 夏合宿 最後の日は4年生が食当





1984年 第2次新練 鳳凰三山



1984年 夏合宿 女子P + 男子O (南アルプス)



1984年 夏合宿 男子パーティーと遭遇



1985年 2次スキー 樽池 女子P + 男子O



1985年 2年強化 女子P + 男子O (立山)



1985年 夏合宿 利尻礼文大雪



1985年 春合宿 女子P + 男子O (八甲田)



1986年 2次新錬 ハヶ岳



1986年 夏合宿 南アルプス北半分



1986年 夏合宿 南アルプス北半分



1986年 夏合宿 南アルプス北半分
下山後 服装も軽やかに・・・



1995年 BOXにて (夏合宿に備えて気合を入れるための断髪式?)



1999年 女子PW 利尻岳



1999年 夏合宿 トムラウシ岳

編集後記

アンケートの集計を創立コンパで発表するだけの計画が、集計が進むうちに皆さんから頂いた回答の一つ一つに胸打たれ、これも伝えよう、あれも盛り込もうと、計画はどんどん膨れ上がって行きました。

アンケートの集計の年表は実行委員の岩崎さんと谷本さんが作成してくれ、全体の出来のすばらしさと「女子パーティーが編成できた時」の印の桜色の顔に全員大喜びしました。委員会発足の時には大変な事を背負い込んでしまったと重圧を感じましたが、親子ほど、いやそれ以上年が離れていても同じ話題で盛り上げられる後輩たちとの毎回のミーティングが楽しく、実行委員会を通してまた新たな絆を築けたことは大変うれしい事でした。

158 荒木 彩子

アンケートや寄稿文をお願いしたにもかかわらず、反対にこのような機会を与えてくれて嬉しいって激励のお言葉を頂きそれが大変励みとなりました。

そんな仲間を持つ私はますます DWV が好きになり、一番の誇りです。50年の伝統の下、でき上がったこの冊子を青春の宝物にしていただければ幸いです。

341 谷村 昌子

この実行委員会の活動を通じて、自分にとってはほんの3年半の体験だったものが、連綿と引き継がれてきた皆さんの活動とつながったものであることを強く強く実感しました。

少しずつ年代は違ってもワングルのDNAってあるな、と感じました。とにかく、荒木実行委員長のパワフルなこと！自分にもまだまだ、あそこまで伸び代を想定していいんやと勇気をいただきました。楽しかったです。ありがとうございました。

479 岩崎今日子
(DWV 女子と同年)

テーマは「女子会」。記念誌の打ち合わせをしつつも、脱線する現役時代の話は、毎回発見があり楽しかったです。

話を聞けば聞くほど、この50年間で山岳を取り巻く環境は様変わりしましたが、女子部員の奮闘はどの時代も、また、これからも不変の課題のように思いました。

520 谷本 史

偉大なる素敵な女子先輩実行委員の皆さまのご尽力には、いつも頭の下がる思いでした。40周年の年に入部、「次は50周年で！」という合言葉も特に心に響かなかった私が、50周年イベントの実行委員に声をかけて頂いたのをきっかけに、50周年実行委員で記念誌を担当させて頂き、そして女子50周年でも声をかけて頂いたことに、深く感謝しているとともに、辛かった冬山合宿にも耐え、ワングルを続けてきて良かったなあと、改めて実感しております。

620 豊田 理恵



このDWVのエンブレムはスポーツユニオンの公式行事に出席する時のブレザーに付けるため、2006年に新しく考案されたものです。

この度の「体育会ワンゲル女子 50周年記念誌」の発刊にあたり、表紙のエンブレムには山靴に赤いリボンをあしらい、年号は体育会ワンゲル女子誕生の1964年にしています。

同志社大学体育会ワングル女子誕生 50 周年記念誌

発行日 2014 年 6 月 29 日
編 集 体育会ワングル女子誕生 50 周年記念誌実行委員会
発 行 同志社大学体育会ワンダーフォーゲル部 OB 会
印 刷 グラフィックサポート GOUT

